

# パンタナール通信

一般社団法人 南北米福地開発協会 会報

2020年5月1日 200号

世界平和地球村の建設と自然環境の保護

## チャマココの人々と



レダの従業員宿舎前にて

レダ基地で歩む、個性豊かな若者たち。生き生きとした感性を持って、目標にチャレンジする、次世代のパイオニアです。先輩から受け継いだパンタナール精神と、レダ基地が開発してきた貴重な技術と研究データの継承。これについては本紙先号でも触れました。今回は、その若者の一人、竹内暁信（たけうちあきのぶ）君が送ってくれたレポートです。

「チャマココの人々」2020年3月21日記 私レダに到着して、早くも二ヶ月が経ちました。この二ヶ月は多くの物を見て、触れて、経験して、学び、感動する日々でした。

壮大な大自然、動物園でしか見たことのなかった動植物、普段の生活ではどうても体験できない様々な出来事を通して、成長させていただいています。すべては、今まで21年間レダの土地を開拓し発展させてくださった多くの先輩方の賜物であり、心から感謝申し上げます。

私が体験したレダでの出来事を紹介するにあたって、一番強く感じた点を書かせていただこうと思います。

ご存知の方も多いと思いますが、レダの地は美しく壮大な自然の中にあります。とても広いその土地を管理するのは容易ではありません。したがってレダ開拓当初から、近隣に住むインディヘナ（先住民）を雇用してきたと聞きました。

パラグアイには18のインディヘナグループが住んでいて、それぞれに幾つかのコミュニティ（共同体集落）が存在します。彼らの多くは森の中や川岸に拓いた居住地に家を建て、集落を作り、自然の物を採り、小さな菜園をつくり、家畜を飼い、ほぼ自給自足の生活を送っています。

その一部には、もうお店が普及している集落もありますが、電気や水道、診療施設などのない集落も稀ではありません。ですから率直に言って生活水準が都市部に比べて低く、都市社会に容易に受け入れてもらえず、職に就きにくい等の差別を受けることもあるそうです。

レダ基地スタッフにとって、広大な土地を活用するには人手が足りず、また開拓初期は現地事情に関する知識も不足していたため、この土地に古くから住むインディヘナを雇用することになりました。またインディヘナにとっては、収入を得るとともに、職に伴う技能を身につけることもでき、言わばウィン・ウィンの関係を築くことができました。

こうして綴られてきたレダ開拓21年の歴史は、多くの先輩方の作り上げたものではありませんが、インディヘナの人々を抜きにしては有り得なかったでしょう。（四面に続く）（写真前列左から二人目が竹内君）



## レダ基地スナップ



第3の池から取り出した188匹のパクーを第7の池に移す。3月14日



第3の池のパクーをピラニアから救出する。3月14日



伊達氏、青木氏、岩澤所長がスルビ釣り。計5匹。3月22日



復活祭のお祝いで、羊のアサード(焼肉)。4月9日



パンレイシの実。3月16日



3月30日

滝川君(右)とフアン・ソーサ君が網を修理。



3月31日

エビの餌を作る川久保君(右)とクリスチーノ君。



第1農場のネット室で育つスイカ。3月27日



100匹以上の子豚が育つ豚ランド。担当の江頭君が早朝に撮影。3月初旬



# 「釣りは苦勞してもやらねばなりません！」

水落勝(みずおちまさる)氏は、レダ基地において木工作業を一手に引き受ける、長期シニアボランティアです。2014年2月に初めてレダを訪れて以来、家具・建具等の製作・修理など基地のあらゆる要請に応えて来ました。プロ大工として長年培ったハイレベルの技能が生み出すその製品(大小のテーブル・ベンチ・寝台、棚・ドア・窓・養殖建屋、他)は、堅牢で美しく、学校の机・椅子・書棚等を製作したこともあって、基地内外で定評があります。また作業場の整理整頓、作業後の清掃などを徹底し、モラル面でも他の作業員たちに善い影響を与えています。水落氏はまた、釣りにも熱心に取り組んでいます。文先生が古参指導者たちに与えた課題である4種40匹の魚、計160匹を釣ることを目標とし、すでにドラド釣りは40匹を越えました。本業で手を抜くことは一切ありません。毎日の休憩時間や日曜日など、寸暇を惜しんで釣りに行き、場所・時間帯・仕掛け、釣りの方法等を研究し、コツコツと結果を積み上げています。では、水落氏の体験談を紹介しましょう。

## Q なぜレダで釣りをするのですか？

A レダに初めて到着したとき、まず釣りをしよう、中田所長(当時)から言われたのが始まりです。レダ入門の必修コースだということです。釣りは文先生の足跡を辿る路程なのだということが、後によく解るようになりました。それ以来ずっと続けています。

## Q 釣りをしているとき、どんなことを思いますか？

A 順調に釣れるとき、釣りは楽しいです。けれども



窓を直した水落氏。2019年8月

1週間、2週間と釣果ゼロの日が続くと、忍耐を試されます。ドラド38匹までは、時に苦しみながらも何とか釣りました。しかし39匹目がなかなか釣れず、40匹目を釣るには、さらに何週間もかかりました。またスルビは30匹まで釣っていたのですが、私のレダでの最終

日、(金曜)午後5時のアキダバンに乗る前にあと1匹釣りたいと思いました。結果的に船が来るのが3時間遅れて、その間にスルビが1匹釣れ、これはリリースしました。バジェミではバスを1時間待たされ、アスンシオンには日曜日の午前3時半にようやく着いたのですが、その時霊的にピンと感ずるものがありました。レダにおける私たちの釣りは、魚だけを釣っているのではない、何か天意の釣りをしているに違いない、だから釣りは苦勞してもやらねばならないのだと、強く感じました。

## Q 釣り人の心の状態は釣果にも反映するのですか？

A ある魚(釣りの対象ではない)にラインを切られたことがあります。それはとても大切なラインで、あまりに悔しくて、怒りの感情が高ぶってきました。



小物のドラド。2019年6月13日

やがて心が落ち着くと、上山先生(レダの責任者で、釣りの第一人者)が「悔しい思い出は山ほどある」と言われたことを思い出していました。そして自分の情が整理されたとき、ガツーンと、大きなドラドがヒットし、釣り上げることができました。その時、これは決して偶然の結果ではないと思いました。



83cmのスルビを釣って。2019年10月13日

Q どんな釣り具を用意しているのですか？  
A ハリ、糸、竿の三拍子をよく整えることが大切です。特に大物のために、30mのロープと8号のラインを3本用意しました。これで83cmのスルビを引き揚げましたが、もっと強大な魚でも大丈夫です。



水落氏とフアン・ソーサ君。2020年2月9日

## Q 釣りの経験で特に心に残っているのは？

A 大物を求め、パラグアイ川本流に出かけた時のことです。大きなジャウー(マングルジュー...写真右)が掛かりました。当然とは言え、ものすごい力で暴れたのですが、ラインは絶対に切れない自信がありました。ボートの近くまで引き寄せ、自作した長さ2mの銚(もり)を助手のフアン・ソーサ君が投げ、



エビの養殖研究に使う水槽を製作。2018年5月14日

2投目で仕留めました。80cm、8kgのジャウーでした。  
Q 日本の皆様に一言伝えたいことを！  
A 釣りをするだけで、霊界の存在を感じます。そして何より、文先生の心情の世界、ご苦勞に満ちた生涯を訪ねられる思いがします。皆様、釣りをするためだけにレダに来られてもいいと思います。来られたらお手伝いして差し上げますよ。ぜひお出ください。





スタッフとの密着作業で技能と規範を身に着ける。

層彼らに信頼を置いて待遇を変えて行くべきではないでしょうか？話が変わりますが、私は夢があり、貧しい人々の生活支援を目的とした物流関係の仕事をする予定です。彼らが望

(一面より続く) レダで私たちがプロジェクトを遂行するとき、自ずと彼らと様々に関わります。私もレダに来て早々に彼らと意気投合し、今は一日の半分以上を共に過ごしています。会話においては足りない言語力をジェスチャーで補いながら、仲を深めて来ました。彼らは18あるインディヘナのグループの一つ、チャマコ族であることを知り、彼らの生活や言語等を教わりました。そして彼らの家に招待され、手厚く歓迎していただきました。

聞けばチャマコ族全体の人口は約800人、多い数ではありません。また彼らだけが話すチャマコ語は、文明の発展と共に消えつつあるそうです。そんな彼らは自分たちの危機に直面しながらも、私たちの理想郷を南米の地に設立する為に、共に力を尽くしてくれています。朝から晩までプロジェクトを進めていくにあたって、彼らの生活の知恵や知識はどんな時も価値あるものであり、今後このレダの地の発展に欠かせないと、私は思います。

仲間意識が強く、正義感に溢れて、情に厚い彼らを、私はもつと尊重し大切にすべきだと思います。開拓当初は信頼関係も無く、ルール等も明確ではなかった故に容易ではなかった事情を承知の上での私の見解ですが、21年の年月と共に築き上げてきた信頼関係のある今、より一

むもの、そのニーズに沿った物を手の届く価格で提供すること、彼らの生活が充実し発展することを願います。重要なのは私たちの考えやエゴの押し付けではなく、彼らのニーズを明確に把握する事です。従って彼らの生活にとけ込み、彼らの話を第一に聞き、親身になる事が重要です。

今回レダでチャマコ族の友人たちと共に過ごす時間は、それを気付かせてくれるものでした。皆の不満はどこにあり、皆の欲するものは何であるかを明確に把握した上で、それを少しでも解決することのできる架け橋になりたいと、心から思いました。

私のレダ生活は残り8ヶ月と、長くはありませんが、南米レダの地に、文先生ご夫妻の願われる福地を建設するプロジェクトを、一生懸命遂行するのはもちろんのこと、共にプロジェクトを遂行してくれるチャマコ族の仲間たちの悩みを一つでも多く解決し、彼らの為になることを考え、行動に移す期間にするよう力を尽くします。

(編者注：2012年の国勢調査(10年ごとに実施)によれば、パラグアイ国内のインディヘナには、19のエスニックグループがあり、チャマコ族の人口は1915人でした。また本記事は、若者個人の日常生活、心情、抱負などを紹介するものです。言うまでもなく、レダ基地運営の基本方針を代表するものではありませんが、このレポートに含まれたメッセージを汲み取っていただければと思います。)

### 第21回パンタナール一日研修会延期のお知らせ

新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、同研修会(ワンデイセミナー)は7月11日(土)に延期します。会場(東京代々木の国立オリンピック記念青少年総合センターのセンター棟4階)、プログラム、参加費(2000円)等是不変です。万一の状況により再延期となる場合は、下記URLのホームページにてお知らせします。

### 第27回環境問題研究会セミナー延期のお知らせ

同じ理由により、6月20日(土)に延期します。講師、テーマ、会場(川崎市の大山街道ふるさと館3階)、時間(午後一時半〜4時)、参加費(無料)等に変更はありません。状況により再延期となる場合は、下記URLのホームページにてお知らせします。

## 一般社団法人 南北米福地開発協会 事務局

〒213-0001

神奈川県川崎市高津区

溝口3-11-15

岩崎ビル4F

電話: 044-829-2821

FAX: 044-829-2820

支援金振込口座: ゆうちょ銀行

記号10280 番号61349751

一般社団法人 南北米福地開発協会

E-メール: office@asd-nsa.com

ホームページ: https://asd-nsa.com

Facebook: https://www.facebook

.com/ledaproject.jp/

## 会員の皆様へ

会員の皆様には、周囲の方々にレダ・プロジェクトを紹介し、入会の案内をしていただければ幸いです。紹介用のパンフレット(印刷済み)、および入会申込書は、左記の事務局にお申しつけください。



入会申し込みは、左のQRコードから、グーグルフォームでも行えます。

パソコンでは、下記のURLにアクセスしてください。

<https://asd-nsa.com/nk/>

## レダ・プロジェクト紹介用パンフレットPDF版



紹介用パンフレットは、ネットでも入手いただけます。

スマホなどの端末で、または印刷してクリアファイルに入れてどうぞ。



<https://asd-nsa.com/sk/>